

## 《無料通話アプリ利用時の留意点》

北海道教育委員会

ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト

### トラブル事例

LINEやSkypeなどの無料通話アプリの利用が発端となったトラブルについて、実際に報道された最近の事例をもとに、どのような使い方が問題であったのかを考えてみましょう。以下の事例は2013年の10月以降にニュースで報じられたものです。

#### 《事例1》 2013年10月

高校3年生の男女18人が、学校祭後の打ち上げで、居酒屋やカラオケ屋において、飲酒や喫煙をし、その画像を無料通信アプリを使って投稿した。その画像が外部から通報メールで学校に送られてきたことにより発覚し、当該生徒は停学となった。

#### 《問題点と指導の視点》

そもそも飲酒や喫煙自体が問題ですが、インターネット上への投稿は、全世界に公開されているという基本的なことを理解できていないために、このようなことが起きました。不適切な画像や顔写真などの個人が特定されるような投稿は絶対にさせない指導が大切です。

#### 《事例2》 2013年10月

高校生を含む16～17歳の少年4人が、無料通話アプリの呼びかけを無視した同じ高校に通う男子生徒の両足を縛り、川に突き落とすなどしたことから、殺人未遂容疑で逮捕された。

#### 《問題点と指導の視点》

メールやメッセージ等を読んでいるのに返信がないと、相手に無視されていると思う若者が増えています。また、相手の状況を考えずに早く返信することを強要する人も少なくありません。直ぐに返信があることを当たり前だと思わないこと、様々な事情により直ぐに返信できない場合があることを理解させる必要があります。

このような報道の中に、無料通話アプリ名が挙がることで「無料通話アプリは危険」と考える人も多いと思いますが、無料通話アプリ自体はあくまでもコミュニケーションの手段の一つとして利用されるもので、それ自体がトラブルの要因ではありません。無料通話アプリは、利用者がインターネットの知識や一般的なモラルを守って使えば、とても便利なツールです。11月、12月の資料と併せて、無料通話アプリについての理解を深め、正しい知識を持って利用するよう指導する必要があります。